

saveMLAK

ニュースレター

第 4 号

「南三陸町図書館のお引っ越しのお手伝いに行ってきました」

南三陸町図書館が、現在建っている場所に生涯学習センターが建設されるのに伴い、プレハブとトレーラーハウスの仮設図書館から、バイサイドアリーナ 2 階へ移転するためのお引っ越し作業のお手伝いに行ってきました。

移転作業自体は 4/23 から 4/30 にかけて行われ、そのうち、saveMLAK の仲介派遣としては、4/24-4/27 に嶋田が、4/26 に三津石さんが参加しました。

4/24 に到着したときにはすでに前日からの作業で書架の配置と図書の移動はあらかじめ終了しており、図書の配架計画と、実際の配架、選書を主な作業とすることに。

移転先は、元の仮設図書館のすぐ隣のバイサイドアリーナ 2 階の一角にあり、一般書の書架や絨毯敷きの児童コーナーを備え、閲覧スペースやカウンターもあり、小さいながらも図書館らしい場所ができあがったと思います。しかも、仮設図書館の時よりも開架スペースが広がり収蔵能力が上がったため、開架図書を増やせることに。その結果、これまでスペースの問題から、来館者のニーズに絞った蔵書構成だった



一般書配架作業中

ものから、基本的・実用的な資料を追加することで、ニーズを押さえつつもある程度基本的な本がバランス良く配架された図書館の棚ができたのではないかと。

追加の選書にあたっては、職員の方に利用者の動向をうかがいつつ、こちらからも今回の選書の方針やどういう棚ができあがるかを伝えつつ、作業を。蔵書の中にしっかりとした専門的な本はたくさんあるのですが、広がったとはいえ開架スペースはまだまだ狭いので、そういう本を置くのとニーズと合わずに本が動かなくなってしまうので、今回はニーズを優先しつつも、これから必要とされそうな実用書や基本書を追加したりしました。

5 月 1 日を再々開館の目標とし、23 日から 27 日の平日に総力を挙げての作業、30 日に最後の仕上げということで、28 日、29 日は休養日となりました。私は 30 日からは別件の宮城県ツアーに参加するため、30 日の作業には参加せず、29 日に出勤した職員の方と一緒にちょっとした残務整理や相談を受けたりして、今回のお手伝いを終了しました。

そして、宮城県ツアーの一環で、5 月 1 日再々開館の日を再訪。

書架見出しがいたり、衝立で図書館内に業務スペースが確保されたりして、さらに図書館らしく変わっていました。見学させていただいている間にもお客さんが続々と来

館され、移転しても利用されていてまずは一安心。これからの動向が楽しみです。

私が南三陸町に入ったときにはまだ咲き始めた桜も、毎日通う間に日に日に咲いて、再々開館の日には満開になっていました。比較的長期に滞在したことで、そういう変化を目の当たりにしたり町の方とおはなしできたりして、私にとっても貴重な体験となりました。南三陸町の方々、大変お世話になり、また、ありがとうございました。そして、移転作業お疲れさまでした。

【嶋田 綾子】

「4/30～5/1 宮城ツアー報告」

4 月 30 日～5 月 1 日、宮城県図書館の熊谷慎一郎さんの呼びかけにより宮城県の図書館をめぐるツアーが開催されました。企画意図は「宮城県内の被災地や被災図書館を回ったことがある経験を持つ方を増やすことで、今後の継続的な支援につなげよう」というもの。SaveMLAK から既に宮城での支援活動・見学の経験のある 4 名が参加した他、シャンティ国際ボランティア会 (SVA) から 2 名の参加があり、案内役&運転手の熊谷さんを含めた 7 名が 1 台のワゴン車で 2 日間を共にしました。

4 月 30 日は、県南部 (村田町歴史みらい館～大河原町立図書館～白石市立図書館～角田市立図書館～丸森町立金山図書館～亘理町図書館～岩沼市立図書館～名取市立図書館) を回りました。振替休日の月曜日であることからほとんどが休館日でしたが、丸森町と名取市では休日出勤の職員の方が熊谷氏の姿を見るや声をかけてこれ館内を見学させていただくことができ、また親しくお話を伺うことができました。5 月 1 日は県北部コース (南三陸町立図書館の固定施設と BM ステーション～女川つながる図書館)。両日とも、図書館施設だけではなく街の被災状況についても実地での案内を受け、山元町・女川町・石巻市など沿岸部での津波被害だけではなく、白石市・登米市など内陸部の震災被害についても未だに残る被災の爪痕を目の当たりにし、解消できないでいる仮設住宅の状況についても説明を受けました。

図書館施設については、震災からの復旧・復興という点だけ見れば一定の達成が来ているところも多いが、被災後 1 年以上を経過した現在では復旧の程度にかかわらず震災前からの課題としての図書館振興がやはり重要になっているとのこと。行政の中での図書館の認知・職員配置の問題・条例上の図書館の位置付けなど、個々の自治体の経過を踏まえながらの熊谷さんの指摘に耳を傾けることとなりました。

岩手・福島では個々の事情は異なるのですが、あくまで現場の状況と受援力に即して支援の手を差し伸べる必要性は同じでしょう。現場に何度も通いながら信頼関係を育んできている熊谷さんからの指摘は貴重なものでした。今回授けられたことを踏まえ、継続的な支援へとつなげて参りましょう。

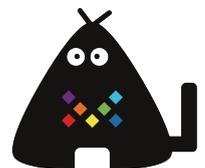
最後に、熊谷さん以外の参加者名を紹介します。

(50 音順 敬称略)

市川 斉 (公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)
鎌倉 幸子 (公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)
是住 久美子 (京都府立図書館から国立国会図書館関西館へ出向中)
嶋田 綾子 (フリー)
田崎 淳子 (東大総合図書館)
村岡 和彦 (大阪市立中央図書館)

【村岡 和彦】

次ページも
あるよ



saveMLAK

「だれでも・どこでも Q&A 図書館」活動報告

2011年3月14日に国立国会図書館レファレンス協同データベースサポーターメーリングリストに「レファレンスで被災地を支援できないか」という提案を筆者が行ったことから、「だれでも・どこでも Q&A 図書館」は始まりました。その後、協力者を募り事務局を組織、次いで5月から実際に回答に当たる回答団を募集し、6月1日から質問の受付を開始しました。

その発想はシンプルなものでした。現地で復興のため100%のサービスができない図書館に代わって、無事だった地域の有志による回答団がネットワークを通じて答えていくというプロジェクトが、「だれでも・どこでも Q&A 図書館」です。同時に、復興中の図書館や地域への支援にもつながると考えていました。

しかし、6月の質問受付の開始から2012年3月まで、質問が寄せられたのはわずかに2件でした。

なぜレファレンスは来なかったのでしょうか。ニーズはなかったのでしょうか。saveMLAKによる現地図書館への「御用聞き」からは、「早くサービスを再開したいが復旧の目途が立たない」「自分たちの手でサービスを再開したい」などの声があったとの報告がありました。一方、南相馬市立中央図書館からは「原発、放射能関連の資料を収集するので文献リストが欲しい」との要請があり、これに応えるため60名を超える回答団がそれぞれの図書館で所蔵する資料のリストアップを行いました。このように、ニーズは皆無ではなく、また要請があればそれに応じたアクションを起こすことは可能でした。

「レファレンスそのものが一般に知られていない」「広報不足」と断じることもできます。しかし、被災した際にどのように他館に応援を要請するか、また支援要請にどのように対応するか、これまで検討されたことはありませんでした。支援を他の図書館に依頼する、あるいは被災した地域や人々にとって、図書館がその助けになるという相互の信頼関係が不十分だったことにあるのでは、と考えています。支援活動において、日本図書館協会と会員館、あるいは都道府県立と市町村立のような縦の階層関係が有効に働く側面もありますが、横のつながりが不足していたのではとも見ることができます。他者とのつながりという観点からは、「図書館（員）による支援」という枠組みに拘りすぎたことも反省の一つです。saveMLAKという図書館以外の人々とが連携している場にながら、それを生かすことができなかったことが悔やまれます。これは災害支援に限りませんが、図書館が真に利用者のニーズに応えようとするならば、いわゆる「館界」に閉じずに多様な人々の意見を受け入れることが必要だと痛感しました。

「だれでも・どこでも Q&A 図書館」の活動を通じて、災害に対応できるネットワークができたこと、これが私たちの成果です。回答団は4月末を持っていったん解散しましたが、「次」に備えて今後もこの集まりは継続したいとの声があったことから、「だれでも・どこでも Q&A 図書館」の活動としては「凍結」という形を採りました。今後は、さまざまな利用者から、気軽になんでも訪ねてもらえる関係を作るため、まずは saveMLAK のメーリングリスト上で随時疑問や質問に答えるなどの活動を通じて、基礎体力を維持してゆく予定です。

最後に、「だれでも・どこでも Q&A 図書館」に様々なご協力やご支援を頂きました各位に、この場をお借りしてお礼申し上げます。【林 賢紀】

統計 4 月末現在

saveMLAK ML アカウント数	292 (+5)
総ユニーク Wiki 編集者アカウント数	322 (+1)
Wiki 編集回数の総計	113,711 (+1236)
総 Wiki ページ数	27,418 (+103)
総 Wiki 施設ページ数	21,368 (-975)

4 月の出来事と今後の予定

- 2012年4月24日～4月27日
 - 活動：南三陸町仮設図書館の仮移転支援のため、プロボノ派遣仲介(2名)
- 2012年4月26日
 - 第14回 saveMLAK MeetUp 4拠点(東京、横浜、大阪、福岡)を結んで運営ミーティングを実施
- 2012年4月30日
 - 外部イベント：東日本大震災と自然史系博物館 被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究会(於・大阪市立自然史博物館)登壇予定：岡本
- 2012年5月9日
 - 外部イベント：第27回セマンティックウェブとオントロジー研究会 登壇予定：加藤。LOD チャレンジ受賞作品の紹介として報告予定。
- 2012年5月27日
 - 協力イベント：図書館総合展フォーラム2012 in 仙台「東北を訪ねるバスツアー支援と受援の現場を巡る」
- 2012年8月2日～4日
 - 外部イベント：学校図書館問題研究会(学図研)2012年(第28回)全国大会(福島大会)登壇予定：分科会「被災地に、本を読む環境を」にて横山寿美代さんが報告予定。

転載：<http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>: ニュース より

saveMLAK 会計報告 2012年4月期収支 4月末現在

《収入》

受取寄付金	517,500	個人3件
受取助成金	4,600,000	気仙沼小・中寄贈本PJ
受取利息	17	
計	5,117,517	

《支出》

業務委託費	4,101,846	気仙沼小・中寄贈本PJ
支払手数料	840	振込手数料
支払手数料	1,500	通知票発行手数料
計	4,104,186	

《4月末現在普通預金残》

1,855,192 (前月比+1,013,331)

ニュースレター4月号の3/31現在の預金残高が間違っていました。¥688,575を¥841,861に訂正します。

なお3月31日をもって saveMLAK 第1期の決算報告を行いました。4月26日石道尚子さんによる監査の結果、問題はありませんでした。

【ファンド係：赤塚 昌俊】

編集後記

ご感想やお気づきの点(文字が小さすぎるとか・・・?)がありましたら、ぜひ↓にメール等でお知らせを。お待ちしております。【今号編集担当：久戸瀬 瑞季】

編集発行：saveMLAK プロジェクト

発行日：2012年5月10日(第4号)

発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル2F

さくら Works <関内>

アカデミック・リソース・ガイド株式会社内

saveMLAK プロジェクト

E-mail: pr@savemlak.jp

URL: <http://savemlak.jp/>